

# 創 SOSEI 成

39  
2022

GRADUATE SCHOOL OF FRONTIER SCIENCES  
THE UNIVERSITY OF TOKYO

特集

## 柏から 手の届く宇宙

### INDEX

#### FRONTIER SCIENCES

持続可能社会実現のための触媒化学 /

深層学習と一細胞計測データによる

生命過程シミュレーション /

骨から読み解く、生き物たちの進化

#### GSFS FRONTRUNNERS

留学生の窓

#### ON CAMPUS×OFF CAMPUS

EVENTS & TOPICS

INFORMATION

Relay Essay



## 「ライフサイクル思考で持続可能な社会をデザインする」

### 「ライフサイクル思考」と「対話」で次世代社会を創る

現在、Wholeness Lab 代表として「環境負荷の定量化 (LCA) と次世代のライフスタイルを創造する」をミッションに活動をしています。企業向けの持続可能ビジネスのコンサルティング業務のほか、複数の研究組織に所属しながら調査活動や執筆、講演やファシリテーション等を行っています。

活動の基点になっているのが、大学院時代に学んだ「ライフサイクル思考」です。SDGsをはじめとして環境問題等に対する社会的な認知は高まりました。しかし、では「どうしたら環境負荷が低くなるのか？」や「どういうビジネスデザインにしたらいのか？」ということに答えを見出せている組織は少ないといえます。

そこで、LCA を用いて環境負荷を定量化し、さらに企業やユーザー等との「対話」をする場を設けることで、具体的かつそれぞれのステークホルダーが自分ごと化された次世代の社会デザインを創出しています。

LCA (ライフサイクルアセスメント)の社会への展開



企業向けの持続可能ビジネスのコンサルティング。

### 後輩の皆さんへ

大学院修了後は自治体職員、NGO 職員、NPO 職員、そして研究所の研究者として様々な活動をしてきました。振り返って思うのは、いずれの場においても「新領域を創成する科学」そして「学融合」という志向性がますます重要になってきている、ということです。環境問題をはじめとする社会課題は、多様な人々との対話と合意形成がとても重要になるからです。

「Think Globally Act Locally」を合言葉にいろいろなことに挑戦してきましたが、働き方や研究の活かし方の一例として、皆さんへの何かのヒントになれば幸いです。2022 年からは私自身も社会人学生として博士後期課程に進学予定です。これを読んでくださった方とお話できたらとても嬉しいです。



一児の母としても日々頑張っています。



### 青木 志保子 AOKI Shihoko

Wholeness Lab 代表 (フリーランス研究者)

#### PROFILE

- 2008 年 新領域創成科学研究科 環境システム学専攻 修士課程修了
- 2008 年 東京都福生市役所入庁
- 2012 年 国内 NGO/NPO で活動 (環境省プロジェクトや経済産業省プロジェクトに参画)
- 2015 年 国際大学グローバル・コミュニケーション・センター 入所 (主任研究員)
- 2021 年 フリーランス研究者として独立、同時に複数組織で活動を行う (国際大学グローバル・コミュニケーション・センター主任研究員・併任、理化学研究所未来戦略室嘱託職員、NPO 法人ミラツク非常勤研究員、等)
- 2022 年 新領域創成科学研究科 環境システム学専攻 博士課程入学 (予定)